

伊丹想流私塾第6期生公演

平成お伽草紙

アイホールの戯曲塾・伊丹想流私塾(いたみそりゅうしじゅく)の卒業公演。
今年は、現代風に「お伽草紙」をアレンジした短編九本を一挙上演します。

塾長／北村想(プロジェクト・ナビ)

総合演出／中村賢司(鋼鉄猿廻し一座)

演出／田中孝弥(清流劇場)、中村賢司 他

作／熊本早百合、ささきじゅんこ、椎乃真理、東雲京子、
中島ひろひさ、西山ともか、水上風、水本剛、山中珊瑚

出演／鋼鉄猿廻し一座、清流劇場 他

舞台・音響・照明／(株)エスエフシー

日時
6月1日(土)19:00 2日(日)15:00
※開場は開演の30分前です

会場
アイホール (JR伊丹駅前)
☎0727-82-2000

料金
前売：1,000円 当日：1,200円(全席自由)

チケット取扱い・問い合わせ
アイホール ☎0727-82-2000

主催 伊丹市／(財)伊丹市文化振興財団

手塚治虫さんのマンガ「ハトよ天まで」はたしかサンケイ新聞に掲載されたものだと記憶しているのだが、というのも実家はいまだに保守系の産経新聞を入れているからなんだけれど、高校生の頃にこのマンガを毎日読むのが楽しみであって、手塚さんの作品の中でもこれは傑作なんじゃないかとも思い起こすことができる。内容はというと、民話の世界を描いていたんじゃないかなとそれだけは記憶の中にあって、それというのも、登場人物のひとりに未来人がいて、彼は未来から過去の世界に逃げてきているのである。何故逃げてきたかという、べつに罪をおかして逃げていくワケではなく、殺伐とした未来社会に厭きて、まだ澗刺と民話が生きていた時代にノスタルジックに逃げてきているのである。この設定がいたく気に入って、このマンガをいまでも記憶しているわけだ。

誰がいったか知らないが「革命とはノスタルジイの表現である」というコトバがある。またミヒャエル・エンデなどは、本気で「ファンタジイで世界は変えられる」と述べている。まあそれほどだいたいそれたことはいわないが、この暗いご時世、ひととき、ファンタジイの夢物語に酔っても罰はあたらんだろうと思う。

北村想